

クリニカルラダー I 到達目標(共通) : 指導を受けながら基本的援助が安全に実施できる。チームメンバーとしての役割・責任を果たす。社会人、専門職人であることを自覚する。

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3									
クリニカルラダー目標	地域医療機能推進機構大阪病院 看護部 クリニカルラダー評価表 ～レベル1～ の実践力3領域 (倫理の実践力・看護を臨地で実践する能力・組織的役割遂行力) にかかる各評価項目の評価内容すべてについて、1年間で到達することをめざす。																				
看護部新卒看護士到達目標	1週目:病院の構造がわかる。病院・看護部の方針がわかる。 2週目:病棟の構造や1日の流れがわかる。 3週目:先輩とともに患者の就業前までのケアができる。			先輩とともに日々の担当患者のケアができる。検温・ケア・ガーゼ交換など			指導を受けながら1人で日勤の日々の担当患者の検温・ケアができ報告できる。			指導を受けながら1人で日勤の重症患者の検温・ケアができ報告できる。											
到達時期	3ヶ月後			6ヶ月後			12ヶ月後														
看護職員として必要な基本姿勢と態度	(1) 医療倫理・看護倫理に基づき、人間の生命・尊厳を尊重し患者の人格を擁護する (2) 看護行為によって患者の生命を脅かす危険性もあることを認識し行動する (3) 職業人としての自覚を持ち、倫理に基づいて行動する (5) 患者を一人ひとりと尊重し、受容的・共感的態度で接する (6) 患者・家族にわかりやすい説明を行い、同意を得る (8) 守秘義務を厳守し、プライバシーに配慮する (9) 看護は患者中心のサービスであることを認識し、患者・家族に接する (10) 病院及び看護部の理念を理解し行動する (11) 病院及び看護部の組織と機能について理解する (14) 自己評価及び他者評価を踏まえた自己学習課題をみつめる (15) 課題の解決に向けて必要な情報を収集し解決に向けて行動する			(4) 患者のニーズを身体・心理・社会的側面から把握する (7) 家族の意向を把握し、家族にしか担えない役割を判断し支援する (13) 同僚や他の医療従事者と適切なコミュニケーションをとる			(12) チーム医療の構成員としての役割を理解し協働する (16) 学習の成果を自らの看護実践に活用する														
看護技術	(17) 温度・湿度・換気・採光・臭気・騒音、病室整備の療養生活環境調整 (18) ベッドメイキング (20) 食事介助 (27) 歩行介助・移動の介助・移送 (28) 体位変換 (32) 清拭 (33) 洗髪 (34) 口腔ケア (35) 入浴介助 (36) 部分浴・陰部ケア おむつ交換 (37) 着衣交換等の衣生活支援、整容 (41) 体温調整 (64) バイタルサイン (呼吸・脈拍・体温・血圧) の観察と解釈 (65) 身体計測 (71) パルスオキシメーターによる測定 (72) 安楽な体位の保持 (73) 嚥下等身体安楽促進ケア (74) リラクゼーション技法 (76) スタンダードプリコーション (標準予防策) の実施 (77) 必要な防護用具 (手袋、ゴーグル、ガウン等) の選択 (79) 医療廃棄物規定に沿った適切な取り扱い (81) 洗浄・消毒・滅菌の適切な選択 (82) 誤薬防止の手順に沿った与薬 (83) 患者誤認防止策の実施			(22) 自然排泄・排便援助 (25) 洗滌 (30) 入眠・睡眠への援助 (45) 褥瘡の予防 (47) 経口薬の与薬、外用薬の与薬、直腸内与薬 (53) 抗菌薬、抗ウイルス薬等の用法の理解と副作用の観察 (54) インシュリン製剤の種類・用法の理解と副作用・副作用の観察 (56) 薬剤等の管理 (毒薬・劇薬・麻薬、血液製剤を含む) (56) 静脈血採血と検体の取り扱い (68) 採尿・尿検査の方法と検体の取り扱い (69) 血糖値測定と検体の取り扱い (75) 精神的安楽を保つための看護ケア (78) 無菌操作の実施 (80) 針刺し切創、粘膜暴露等による職業感染防止策と事故後の対応 (84) 転倒転落防止策の実施			(19) 食生活支援 (21) 経管栄養法 (23) 導尿 (24) 膀胱内留置カテーテルの挿入と管理 (26) 挿便 (29) 廃用症候群予防・関節可動域訓練 (31) 体動・移動に注意が必要な患者への援助 (38) 酸素吸入療法 (39) 吸引 (口腔内、鼻腔内、気管内) (40) ネブライザーの実施 (42) 体位ドレーン (43) 人工呼吸器の管理 (44) 創傷処置 (46) 包帯法 (48) 皮下注射、筋肉内注射、皮内注射 (49) 静脈内注射、点滴静脈内注射 (50) 中心静脈内注射の準備・介助・管理 (51) 輸液ポンプ、シリンジポンプの準備と管理 (52) 輸血の準備、輸血中と輸血後の観察 (55) 麻薬の種類・用法の理解と副作用・副作用の観察 (57) 意識レベルの把握 (58) 気道確保 (59) 人工呼吸 (60) 閉鎖式心臓マッサージ (61) 気管挿管の準備と介助 (62) 外傷性の止血 (63) チームメンバーへの応援要請 (67) 動脈血採血の準備と検体の取り扱い (70) 心電図モニター・12誘導心電図の装着・管理 (85) 薬剤・放射線暴露防止策の実施 (86) 死後のケア														
看護実践における管理的側面	(87) 施設における医療安全管理体制について理解する (89) 施設内の医療情報に関する規定を理解する (91) プライバシーを保護して医療情報や記録物を取り扱う (93) 業務の基準・手順に沿って実施する (101) 規定に沿って適切に医療機器、器具を取り扱う (102) 看護用品・衛生材料の整備・点検を行う			(88) インシデント (ヒヤリ・ハット) 事例や事故事例の報告を速やかに行う (90) 患者等に対し、適切な情報提供を行う (92) 看護記録の目的を理解し、看護記録を正確に作成する (94) 複数の患者の看護ケアの優先度を考え行動する (95) 業務上の報告・連絡・相談を適切に行う (97) 薬剤を適切に請求・受領・保管する (倉・毒薬、麻薬、劇薬) (99) 定期的な防災訓練に参加し、災害発生時 (地震・火災・水害・停電等) には決められた初期行動を円滑に実施する (100) 施設内の消火設備の定位置と避難ルートを把握し患者に説明する (103) 患者の負担を考慮し、物品を適切に使用する (104) 費用対効果を考慮して衛生材料の物品を適切に選択する			(96) 決められた業務を時間内に実施できるように調整する (98) 血液製剤を適切に請求・受領・保管する														
部署別教育																					
新人研修《目的》	新採用時研修①講義②演習 《目標》 1. 看護部の理念や方針を理解し、看護職員としての自覚を持つ。 2. 看護に必要な共通の知識・技術を持つ。			3か月研修①講義②GN 1. リアリティチェックが軽減できチームの一員として看護する喜びが見いだせる。 2. 事故防止に留意した援助の重要性が理解できる。			6か月研修①講義②GN 1. 患者を迅速・安全に避難・誘導・救護する方法がわかる。 2. 日々の悩みや課題を同期で共有し、ストレスの軽減を図る。			9か月研修①講義②GN 1. コミュニケーション (対人関係) について学ぶ。 2. 翼状針による点滴静脈注射に対する知識・技術を学ぶ。			1年目研修①1年の振り返り②講義③演習 1. 1年間の振り返りを行い、2年目の課題を明確にする。 2. ケーススタディについて学ぶ。 3. 留置針による点滴静脈注射に対する知識・技術を学ぶ。								
2か月研修《目的》	新採用者が大病院の臨床現場に、より円滑に適應できる基本的看護の知識・技術を習得する。 《目標》 ①急性期にある患者の基本的看護を習得し、各部署の看護展開に活用できる。 ②病棟・チーム医療を理解し、病棟看護の役割を学ぶ。 ③手術室・周手術期における手術看護の実際を学び、各部署の看護展開に活用できる。 ④外来・救急室・血液浄化センター・外来における治療検査の看護を学び、各部署の看護展開に活用できる。 5月オリエンテーション																				
コアレクチャー《目的》	1. 基本的看護技術としてフィジカルアセスメントの方法を理解する。 2. 各科共通している臨床看護技術、医療機器について学ぶ。			呼吸状態の観察 意識レベル・麻痺状態の観察 循環動態の観察 口腔ケア 生理と心電図 周手術期アセスメント・観察 口水・電解質バランス 糖尿病・血糖コントロール			□感染管理			□スキンケア			□在宅療養支援			□がん看護			□栄養管理と摂食嚥下障害看護		
救急看護《目的》	①講義②演習 《目標》 BLSを理解し実践できる																				
フィジカルアセスメント《目的》	①講義②2か月研修中 《目標》 フィジカルアセスメントの目的と意義、必要な基本的技法を習得できる。																				
看護倫理《目的》	《目標》 倫理の基礎的知識を理解できる。																				
看護過程《目的》	看護過程を正しく理解し患者の個別に応じた看護実践ができる。			①講義②演習《目標》 事例を通して、看護の方向性を明確にして看護目標が導き出せる。																	
看護記録《目的》	情報開示に対応でき、看護実践の見える記録ができる。			①講義②演習《目標》 当院の看護記録マニュアルに沿って看護記録が書ける。																	
コミュニケーションスキル《目的》	看護者として行動するためのコミュニケーション技法を学び、日々の看護ケアに活かすことができる。												9か月研修に含む《目標》 1. コミュニケーションの原理・原則を理解する。 2. 看護職員として行動するためのコミュニケーション技術を学び、日々の看護ケアに活かすことができる。								
看護研究《目的》	看護の質的向上を目的とした看護研究に取り組み始める。															1年目研修に含む《目標》 ケーススタディを学び、事例検討に取り組むことができる。					
指導者教育	○プリセプター交流会Part I (初プリセプター)			○新人看護職員実地指導者研修 Part I			○コミュニケーションスキル II (コーチング)			○プリセプター交流会Part 2 ○新人看護職員実地指導者研修 情報交換会			○新人看護職員実地指導者研修 Part II			○プリセプター交流会 (次年度プリセプター) ○コミュニケーションスキル III					
新採用者看護実践到達評価 2か月研修部署別評価	○新採用時評価			○師長・副師長との面接 (3か月後到達度について)			○師長との面接 (中間評価)			○師長・副師長との面接 (6か月後到達度について)			○師長との面接 (最終評価)			○師長・副師長との面接 (12か月後到達度について)					

私の研修日程⇒ 月 日～ 月 日